



ポルトガルにて

川那部 浩哉 (当基金理事・琵琶湖博物館館長)

いま、ユーラシア大陸の西の端に来ている。京都や東京より北なのに、年中暖かい、いや、私にとっては暑すぎるどころだ。しかし、先日西北ヨーロッパを襲った風雨のためもあってか、ここのところ気温は最高17度程度。大いに助かっている。

ポルトガル地方は、魚介類を食うこと、今では日本よりも多いのではなからうか。春から初夏にかけて、道端や屋台でのイワシの塩焼きの煙と匂いと味とは、もう極東の地でも有名になっているし、海産物を扱う食堂のおもてにはいつも、大きいのも小さいのも、さまざまな魚が並んでいる。さらに、クルマエビにイセエビ、インガニにガザミ、カキやハマグリのとぐいなどの二枚貝はもちろん、巻貝の類も大小さまざまに種類が多い。

だが何と言っても、私の好物はカメノテ。さあ、読者はこの動物をご存じか。長さ数センチ。筒状の「あし」で岩に付着し、潮が満ちると、先端の「亀の手」のような殻から触手を出して「おいでおいで」をし、浮遊動物をからめとる。さつとゆでたものは、日本酒のつまみとして、岩礁海岸での特権で・・・今はもう「あった」と言うべきだろう。それをリスボンの食堂ないし居酒屋に見つけたのは、20年近く前にならうか。

ここではこれをゆがくこともせず、そのまま生で食べる。すなわち、「亀の手」のすぐ下で、厚い皮を爪先で切断して「あし」から抜きはずし、おもむろに内部の筋肉を賞味する。こうした食べかただから、飛び散る汁を防ぐに苦勞するのは、言うまでもない。この地では、若作りの微発泡酒たるヴィニョ＝ヴェルデによく合う。味を知ればこれが、貝類ではなくて、エビやカニと同じく甲殻類に属することは、誰の口にも明らかだろう。

ポルトガルの肉料理も、捨てたものではない。ポルトワインで有名なポルトの地は、臓物の煮込み料理が有名だ。案内書などには、「肉はよそへ持って行かれ、臓物しか食べられなかった」とあるが、この部分こそがうまかったからではないのか。肉食鳥獣も、獲物は内臓から食べ始めると聞く。今回私の食べたものは、比較的庶民的な店だったせいか、インゲンマメの量がいささか多かったが、なに、構うことはない。鍋の中にかきまぜれば、重い豆は下に、臓物とその他の野菜は上にと、ある程度分かれてとりやすくなる。

動物はすべて、他の生物を食うことで、その「はたらき」や「くらし」を支えている。その点ではまさに、「罪深い」存在だと言っても良い。このように、他の植物なり動物なりの生命をどうしても奪わねばならないのであれば、それぞれの味を最大限に活かして、おいしく食べるべきではなからうか。いや、食べることによってこそ、生命の大切さを知り、また、いつまでもこれを賞味し続けたいと、自然保護へも心と活動を向けることができるはず。大西洋に突き出たロカ岬で海の波を見ながら、改めてこう思った。

(2000年11月2日記)

平成12年度助成事業報告

平成12年度当基金の助成総額	2,932万円	
(財)日本自然保護協会との共同事業による公募助成	26件	2,182万円
(財)世界自然保護基金日本委員会の事業助成	2件	250万
(財)日本自然保護協会の事業助成	2件	250万
その他の助成	2件	250万

が決定、今年より平成13年にかけて助成。(内容は以下に紹介)

平成12年度当基金の助成内容

- (財)世界自然保護基金日本委員会への独自事業助成
 - ・石垣島海域におけるサンゴ礁モニタリング調査及び
沖縄島北部山原(やんばる)の保護活動(ジュゴンシンポジウム
「沖縄のジュゴンを守るために」を含む)
 - ・WWF「北方四島自然保護基金」創設に対する助成助成額：200万円
助成金：50万円
- (財)日本自然保護協会への独自事業助成
 - ・NACS-J自然観察指導員養成制度のプログラム再構築とその実践
 - ・熊本・川辺川のアユの生活環境調査に対する助成助成額：200万円
助成額：50万円
- 極東ロシア森林ホットスポット・プロジェクトへの助成(継続6年目)
地球の友ジャパン 助成額：200万円
 - ・極東ロシア森林スタディツアー運営・実施(100万円)
 - ・北方四島自然保護区に対する協力(50万円)
 - ・極東ロシアの自然環境・開発の英文総覧(50万円)
「The Russian Far East 西暦2000年版」の製作
- アジアにおける猛禽類の研究と保護活動の推進 クマタカ生態研究グループ
「第2回アジア猛禽類シンポジウム」の開催 助成額：50万円

理事・評議員交替のお知らせ

平成12年5月15日の当基金理事会・評議員会の決議により下記のと通りの交替がありました。

記

理事	新任：伊藤 卓雄(前評議員)	退任：大井 道夫・門脇 健
評議員	新任：櫻井 正昭(日本環境協会専務理事)	退任：伊藤 卓雄

○ プロ・ナトゥーラ・ファンズ（第11期）助成先一覧

（当基金と（財）日本自然保護協会との協同事業による助成）

国内調査研究助成

単位：千円

No.	研究テーマ	助成先	代表者	助成額
1	屋久島に移入されたタヌキの定着化の課程	屋久島タヌキ緊急調査ぐるーぷ	田川 日出夫（屋久島環境文化研修センター）	1,000
2	房総丘陵におけるヒメコマツ個体群の緊急調査	房総のヒメコマツ研究グループ	藤平 量郎（千葉エコロジーセンター）	900
3	ダム堆砂排出が河川の一次生産者に及ぼす影響	天竜川ダム堆砂問題研究会	村上 哲生（名古屋女子大）	900
4	移入鳥類の野生化の実態	九州大学移入鳥類研究グループ	江口 和洋（九州大学）	1,100
5	ロシアにおけるシマフクロウの生息環境調査と日本の保護への応用	日露シマフクロウ研究グループ	竹中 健（シマフクロウ環境研究会）	1,000
6	南関東のコナラ二次林の変貌に関する植物社会学的研究	関東二次林研究グループ	星野 義延（東京農工大学）	650
7	岩手五葉山のみに分布するゴヨウザンヨウラクの保全生物学的研究	ゴヨウザンヨウラクの保護を考える会	牧 雅之（東北大学）	550
8	十津川水系アマゴの集団構造の解析（在来種アマゴの研究保護活動）	おんこりんかす	近藤 公乗（大阪府立貝塚南高校）	600
9	長期モニタリングによる北方林成長動態の時系列変化の実態評価	森林動態研究グループ	久保田 康裕（鹿児島大学）	500
合計				7,200

国内活動助成

1	葛飾区水元公園内のオオモノサシトンボの調査と保護活動	みずもと自然観察クラブ	五十嵐 言夫	600
2	長野県南部のハナノキが生育する湿地の保全活動	はなのき友の会	北沢 あさ子	950
3	ニッポンバラタナゴの保護	ニッポンバラタナゴ八尾研究会	加納 義彦	800
4	飯能県民休養地構想の推進、及び隣接開発予定地に対する環境負荷の低減を求める活動	天覧山・多峯主山の自然を守る会	浅野 正敏	900
5	ホトケドジョウの育つ小川づくり	恩田の谷戸ファンクラブ	藤田 廣子	800
6	市民による環境影響評価チェック・モニタリングシステムの構築	三浦半島かんきょうフォーラム	田中 雅宏	800
7	名古屋東部丘陵地のトウキョウ サンショウウオの生息調査	ネイチャークラブ東海	篠田 陽作	210
8	コウモリ観察会実施のためのガイドライン作成と観察会実施の援助活動	コウモリの会	山本 輝正	550
9	箕面市小野原西地域の自然環境保全とまちづくり	みのお山自然の会	本多 孝	400
10	本州産クマガラの繁殖期における生態ビデオ作成	本州産クマガラ研究会	藤井 忠	1,200
11	相模大堰訴訟ならびに相模大堰円卓会議の記録出版	相模川キャンペーンシンポジウム	金尾 憲一	450
合計				7,660

海外調査研究助成

No.	研究テーマ	所属機関	代表者・ [] 内推薦者	助成額
1	インドネシア・ワヤプティ州ジャムスラゲティ地区における村産卵巣の野生フタによる食害率を減少させる試み	インドネシアウミガメ研究センター	Akil Yusuf(アキフ) [亀崎直樹・日本ウミガメ協議会]	1,530
2	ネパールの自然保護地域の生物多様性の目録作成	ネパール自然史学会	P. R. Shakya(シヤキヤ) [土田勝義・信州大学]	1,270
3	ロシアの北方地域における哺乳類相のリスト作成およびその生物多様性の評価に関する調査研究	ロシア科学アカデミー動物学研究所	Alexei Abramov(アブラモフ) [増田隆一・北海道大学]	1,310
4	パキスタン、スード地域の民俗植物とそれらの保護に関する調査研究	国立農業研究センター	Zabta Khan Shinwari(シヤワリ) [中池敏之・千葉県立中央博]	1,100
5	インドネシアスマタラ州の熱帯多雨林内択伐林における主要樹種の生育特性に関する生態学的研究	アングラス大学	Chairul Chairul Mahmud [米田 健・大阪教育大学]	690
6	インドネシアにおける河川生態系保全のための魚道設置と魚類生息場の研究	アングラス大学	Sili Salmah [中村俊六・豊橋技術科学大学]	1,060
合計				6,960

助成金総額	26件	21,820
-------	-----	--------

平成11年度決算ならびに平成12年度予算

当基金では平成12年5月15日に第15回理事・評議員会を開催し、平成11年度の事業報告、決算報告及び平成12年度の事業計画、収支予算案が承認されました。決算と予算は下表の通りです。

平成11年度決算ならびに平成12年度予算

(単位：千円)

項 目	平成11年度		平成12年度
	予 算	決 算	予 算
(収入の部)			
基本財産運用収入	45,275	48,659	43,795
運用財産収入等	25	10,092	35
前期繰越金	6,916	6,916	22,766
収入合計	52,216	65,667	66,596
(支出の部)			
事業費	28,590	26,138	30,000
活動助成	(7,500)	(8,210)	(8,000)
調査研究助成	(14,090)	(5,670)	(14,000)
海外調査研究助成	(6,000)	(11,040)	(7,000)
事業管理費	(1,000)	(1,218)	(1,000)
管理費等	16,900	16,763	15,000
次期繰越金	6,726	22,766	21,596
支出合計	52,216	65,667	66,596

北方四島図 (50万分の1) 作成と保護基金募金のお知らせ

北方四島へのビザ無し渡航が緩和され、四島の自然に対する日ロ両国の共同調査なども行われようになりました。そこで当基金ではこうした調査研究の便に供するため、国土地理院の認可をえて、四島の50万分の1図と、これにロシアで設定している自然保護区の位置図を作成しました(2色刷り4枚1組)。とくにご関心のある向きは当基金へご照会ください。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

当基金と(財)世界自然保護基金日本委員会は共同で、北方四島の自然保護活動を行う世界自然保護基金(ロシア)の「北方四島自然保護基金」創設に対して、支援と募金を行うことにいたしました。近く公式に募金のキャンペーンを行います。別紙チラシのとおり、すでに募金は開始しております。

お 知 ら せ

(財)自然保護助成基金・(財)日本自然保護協会共催 「Pro Natura ファンド第6回助成成果発表会」

日時：2000年12月9日(土)10:50～17:00、 場所：こどもの城(東京・渋谷)8階801研修室

編集後記

20世紀もあと僅かとなりました。いろいろと問題の山積されている地球をより良い状態で21世紀から22世紀へと引継ぐことができるよう、先ず最初の年からどう取組んでいけばよいのか、一世紀という単位で考えると本当に微々たることしか出来ませんが、一人一人の小さな努力の積み重ねに期待するしかありません。心から「21世紀おめでとう！」と言えるように頑張っていきましょう。(岡本 和子記)

Pro Natura ニュース 第10号

発行者：財団法人 自然保護助成基金

発行年月日：平成12年11月30日

〒150-0046

東京都渋谷区松濤1-25-8

松濤7ネクス 2階

TEL:03-5454-1789 FAX:03-5454-2838

E-mail:pro-natura@muj.biglobe.ne.jp

http://www1.biz.biglobe.ne.jp/pronat/